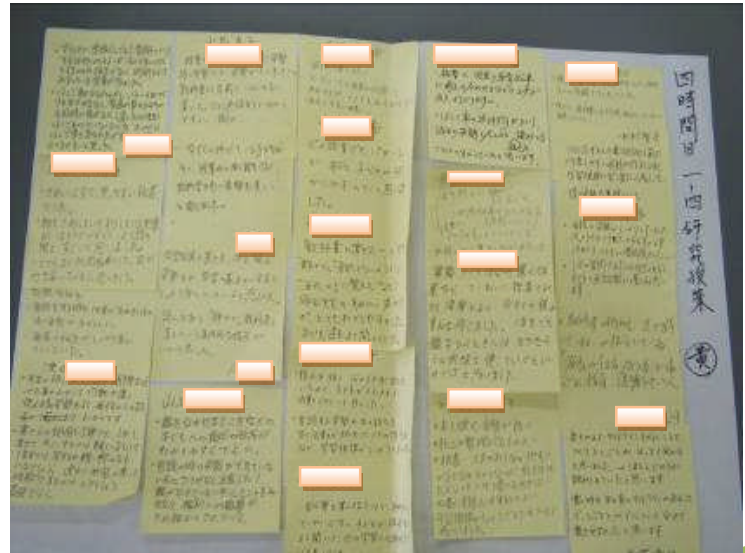


効果的な校内研修の在り方3 付箋を効果的に活用した研究会

東部教育事務所

D小学校は、学校訪問での研究会を効率的に進めるために、付箋を活用しています。この付箋が、全体会にける協議を活性化させています。

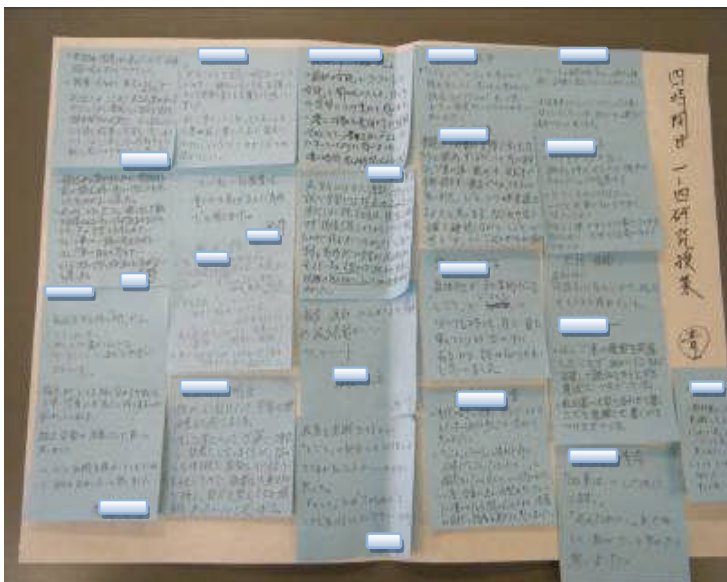
①当日は2つの研究授業が行われました。全体会で30分の研究協議が組まれています。この30分をいかに効果的に進めるかが、研究会のポイントになります。授業者も参観者も充実感を得るには、意見交換ができるかどうかを左右します。



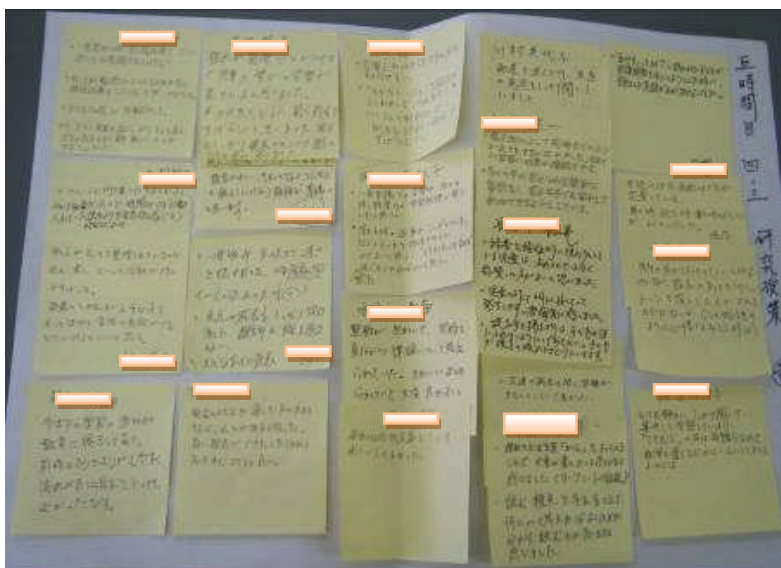
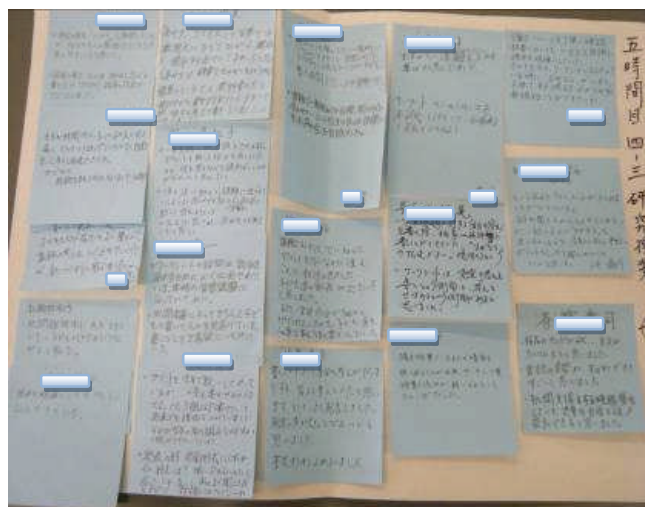
②授業者は、研究仮説に沿いながら、具体的手立てを明確にして授業の中で展開していきます。参観者は、黄色と青色の付箋を持ち、それを視点・研究仮説1と2に沿って、気づいたことを記入していきます。

③ 授業終了後、参観者は、廊下においてある台紙に、付箋を貼っていきます。

④ この台紙に貼られた内容を、司会者が、事前に目を通して、話題のポイントを決めます。この台紙は印刷して全員に配布されます。



- ⑤ 全体会の時間配分は、
- 1,研究概要説明（5分）
 - 2,研究協議会（30分）
 - 3,指導助言（45分）



- ⑥ 研究協議会は、この付箋に基づいて、司会者が、ポイントを絞って進めていきます。予め、この台紙は、印刷して参加者全員に配布されているので、話合いの共通の土台として使われます。
- 司会者は、参加者の意見内容を把握しているので、話題に沿ってどんどん指名していきます。
- 効率的に建設的に展開されます。

付箋を活用した研究会のメリット

- ① 授業者が学習指導案を作成する時の視点を、仮説に沿って作ることができる。
- ② 参観者が授業分析する時の視点も明確になり、これによって研究協議が焦点化される。
- ③ 研究協議30分の中で、全員の意見（付箋）が生かされる。
- ④ 意見（付箋）が生かされ協議されるので、一人一人に充実感が生まれやすい。